

平成 2 8 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 2 8 年 4 月～平成 2 9 年 3 月

1. 学校概要

学校名 勝山市立勝山南部中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒911-0033
福井県勝山市旭毛屋町 3 4 0 1

E-mail nanbutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website www3.fukui-c.ed.jp/k-nanbu/htdocs

児童生徒数 男子 1 1 9 名 女子 1 1 9 名 合計 2 3 8 名
 児童・生徒の年齢 13 歳～15 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☒ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☐ 防災
- ☒ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（ 地域学習 ）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

① 生徒会 JRC 委員会とベルマーク委員会を統合して、ユネスコ委員会を設置

② 全校ボランティア活動

ユネスコ委員会を中心に市役所建設課・環境政策課・地域の方と連携した清掃活動。

1・3年生全員が、校区内の国立公園，学校周辺道路，校区内3つの公園を清掃。学校近くを流れる淀川を2年生全員で清掃。校区内の環境を知ると同時に人間の活動によって出されるゴミに気づき，ゴミを出さないことの大切さや環境を維持していくことに必要な活動について考える機会になった。

③ 部活動

a. ユネスコESDパスポートの活用

福祉部では，昨年度よりユネスコESDパスポートを活用し，ボランティア活動を行っている。ユネスコESDパスポートには，ボランティア活動で感じたことや反省などを記録していく。この記録をお互いに読み合っ，感じたことを共有する時間を設定した。また，話し合い活動の中で，再度記録を見直しながら自分の考えをまとめていくなどして活用し，お互いに思いを伝え合うためのツールとして用いた。

b. 地域の文化祭への参加，募金活動

福祉部では，毎年地域の文化祭に参加している。今年度は，クラフトテープで作ったかごバッグを作り販売し，その収益金を募金することにした。販売当日は，自分たちの作ったバッグがたくさん売れて，自信をもつことができた。販売で，地域の人々とふれあうことができ，地域の方々の温かさを感じることができた。



その後の募金活動では，募金先をインターネットで調べる活動を取り入れた。パソコンでいろいろな募金先を見ながら，一人一人が一番募金したいと思う募金先を決めた。それをもとに，全員でどこに募金するかを決める話し合い活動を行った。食料不足で困っている海外の子どもたちを救いたいという考えを話す生徒，寒さで困っているシリアの国の人々を助ける活動に協力したいという生徒，病気で死んでいく子どもたちを助けたいと考える生徒，それぞれの生徒が，自分が選んだ募金先を他の人にしっかり伝えることができた。その結果，食料の問題も，病気の問題も，寒さの問題も命に関わることでどれも選べないという結論になった。そこで，金額は少なくなるが，「シリア緊急募金」「セイブ・ザ・チルドレン」「国境なき医師団」の3カ所に募金することになり，郵便局へ行き，自分たちで募金の手続きを行った。

c. ユネスコフォーラム参加

「ふくいユネスコフォーラム2016」に参加した。ユネスコESDパスポートを使ってボランティア活動を行ってきたことを生徒全員で発表。人前で話す機会はこれまで経験がなかったが，自分たちが頑張っ取り組んでき

たことを、自信をもって伝えようという目標を立て、練習を積み重ねた。当日は、緊張した様子も見られたが、自分たちの伝えたいことをしっかりと発表することができた。

④ ユニクロ（株）と連携した国際協力

ユニクロ（株）が主催する「届けよう、服の力」プロジェクトに参加。ユニクロから講師を招いて、難民問題や国際協力についての授業を実施。

ユネスコ委員会の呼びかけで、全校生徒から子供服などを集めて寄付。

⑤ 地域を知って、発信する

a. 美術科でのESDの視点を取り入れた取り組み

美術が、日常生活の中に生かされているものであることを身近に感じさせるにはどうしたらよいか。また、自分の地元のいいところを誇りに思い、他の地域の人に話せるようになるために、美術でできることは何か。この2点を念頭に単元のテーマ設定や制作の材料と方法・鑑賞の仕方を工夫した。例えば、1年生では、「かっちゃま駅レストランのメニュー」と題して、勝山の特色を活かした食べ物を創造し粘土で食べ物の模型を製作した。



主食からデザートまで可能にしたことと、注文をとってもらえるための工夫をじっくり考えさせたことから、発想や構想の楽しい作品がかなり多かった。地元の食材を使っていることがわかるように切り込みを入れたり、恐竜や左義長など印象の強いもの以外に九頭竜川の鮎や勝山市の鳥や植物などをデザインに入れてみたりした作品もできた。それぞれの作品から、生徒達が地元に関心を持ち、好いていることが感じられた。

b. 社会科・理科と総合的な学習の時間の連携

国立公園に指定されている「平泉寺」について、勝山市役所史跡整備課から講師を招いて、平泉寺の歴史や史跡発掘の意義について学習した。遠足先の東尋坊は平泉寺出身のお坊さんだったことから、東尋坊が住んでいた井戸や東尋坊住居跡の発掘について知ることができた。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会事務局から講師を招いて、遠足先の東尋坊（柱状節理などを確認できる）と勝山の地質（日本ジオパーク認定）を比較した内容の授業を実施。恐竜が発掘される手取層群や法恩寺山・経ヶ岳の火山活動について知ることができた。

勝山の歴史や文化、ジオパークについて遠足先の東尋坊で観光客にアピールした。市外、県外、国外の方に発信する活動から、コミュニケーションの大切さや発信することで自分たちの住む勝山の魅力を再認識することができた。

c. 理科と総合的な学習の時間、学校行事の連携

学年行事の宿泊体験学習の中に、福井県自然保護センターと連携したプログラムを実践した。専門家を講師として、宿泊学習地周辺の池ヶ原湿原や森林について教えてもらったり、昆虫を採集して調べたりした。地元の湿原に

生息する絶滅危惧種を知ったり，身近にいる昆虫や植物を再認識したり，外来種について学んだりした。これらのことは，生物多様性について身近な自然から知る機会となった。事前学習で調べた絶滅危惧種を実際に観察し，事後学習で福井県自然保護センター所長さんから生物多様性について講演していただき，Act Locally Think Globally を実践できた。

d. 総合的な学習の時間

豪雪地帯に指定されている勝山市の特徴を活かした雪室見学，勝山城見学，勝山市ふるさと検定学習を市役所や商工会議所と連携して進めた。

e. 技術・家庭科と総合的な学習の時間の連携

地元勝山は，昔から繊維の町として有名である。現在も複数の企業が繊維製品を生産している。「特定営利活動法人まちづくり勝山」と連携して繊維関係の授業を実施した。

技術「生物育成」で，蚕を飼育。蚕を繭にしたり，成虫にして卵を産ませたりすることに成功した。現在，“ゆめおーれ勝山”からお借りしている糸操機を使って絹糸をとることに挑戦する予定である。

「まちづくり勝山」より講師を招いて蚕関連について話を聞いた。また，2学年の総合的な学習の時間では，昨年度より「ビジネスの種～勝山に企業や会社をつくり，働く場所を増やそう～」ということで，“ゆめおーれ勝山”での見学や実際に機織り体験を通して，繊維についての知識を深めることができた。

エンゼルランド福井の繊維に関する出前授業で，実験を通して合成繊維など現在の繊維について知り，さらにこれからの繊維についての加工性について関心を高めることができた。



(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）